

## 第2次日野町子どもの読書推進計画

～読書が育む きらり輝く

“ひの”の子どもたち～



日野町図書館イメージキャラクター

ぴのちゃん

平成28年4月

日野町教育委員会

---

## はじめに

日野町では、平成 13 年度に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」、平成 16 年 4 月策定の「鳥取県子どもの読書推進ビジョン」を受けて、平成 22 年 4 月に「日野町子どもの読書推進計画」を策定しました。

この計画をもとに、家庭・地域・学校が連携して「日野町読む読むキャンペーン」など様々な取り組みを行ってきました。また、保育所、学校の図書を充実させ、学校司書を兼務ではありますが配置して積極的な活動を行い、図書館から団体貸出やおはなし会、ブックトークを行ったり朝読書には地域のボランティアのみなさんによる読み聞かせも定期的に行うなど、本を手渡す環境も少しずつ整えてきました。

しかし一方では、子どもを取り巻く社会情勢や生活様式、価値観も変化してきています。学校では本を読むが家庭ではそれほど本を読まない。また、年齢が上がるにつれて本を読まない傾向がみられるなど、時代に応じた対応が求められています。

この「第 2 次日野町子どもの読書推進計画」は、「日野町教育振興基本計画」に基づき、これまでの 5 年間の成果と課題を踏まえ、平成 28 年 4 月から 5 年間の子どもの読書活動推進の基本的方向を示すものです。

子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身につけ、生涯にわたって読書を楽しむことができるよう、関係機関と連携して子どもの読書活動の推進に向け取り組んでまいります。

## も く じ

### 第 1 章 日野町子どもの読書推進計画の基本的な考え方

- (1) 目的と策定の趣旨
- (2) 柱となるもの
- (3) 対象と期間

### 第 2 章 これまでの成果と課題

- (1) 第 1 次計画の成果
- (2) 第 1 次計画の課題

### 第 3 章 具体的な取り組み

- (1) 子どもが読書に親しむための機会の提供と充実
  - ① 家庭・地域での読書活動の推進
  - ② 図書館での読書活動の推進
  - ③ 学校での読書活動の推進
  - ④ 保育所・子育て支援室での読書活動の推進
  - ⑤ 障害のある子どもへの読書活動の推進
- (2) 環境の整備と活動を支える人の育成
  - ① 家庭・地域での読書環境の整備
  - ② 図書館の整備
  - ③ 学校図書館の整備と学校図書館司書の配置
  - ④ 保育所・子育て支援室の環境整備
  - ⑤ 読書ボランティアの育成と活動支援
- (3) 子どもの読書活動についての啓発・広報
  - ① 推進のための普及・啓発
  - ② 子どもの読書に関する情報の収集と提供

### 第 4 章 効果的な推進のために

- (1) 子どもの読書推進体制の整備
- (2) 関係機関との連携・協力の促進

※第 2 次計画の目標値

#### 【資料編】

- 日野町子どもの読書アンケート(平成 26 年度実施)集計資料
- 日野町子どもの読書推進委員会設置要綱 委員名簿
- 子どもの読書推進に関する法律



## 日野町子どもの読書推進計画イメージ図

読書が育むまらり輝く“ひの”の子どもたち



図書館での  
子どもの  
読書活動の推進

学校での  
子どもの  
読書活動の推進

保育所・子育て  
支援室での子ども  
の読書活動の推進

家庭・地域での  
子どもの  
読書活動の推進

障がいのある  
子どもの  
読書活動の推進

- 子どもが読書に親しむための機会の提供と充実
- 子どもの読書活動を推進するための環境の整備・充実
- 子どもの読書活動を支える人材の育成
- 子どもの読書活動推進についての啓発・広報
- 子どもの読書活動推進のための関係機関との連携・協力

### (1) 目的と策定の趣旨

読書は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくために大切な営みです。

子どもたちは、読書によって今まで知らなかった世界を知り、人間の多様な考え方、生活習慣、文化、科学、自然の出来事などに触れたり出会ったりとても楽しい体験をすることができます。

しかし、近年子どもたちをめぐる環境は大きく変化し、テレビやビデオ、ゲーム、さらに携帯電話やスマートフォン、インターネットなどの影響により、子どもたちの読書離れや活字離れが進んでいます。

そのため、国や県は、法律に基づく子どもの読書の推進に関する基本計画や推進計画の策定に取り組み、社会全体で子どもの読書活動を推進しようとしています。

日野町でも平成 22 年から 5 年間を一つの区切りとして「日野町子どもの読書推進計画」を策定し、家庭・地域・学校が連携して、子どもが読書に親しむための環境の整備や人材の育成、広報・啓発を行ってきました。本計画は、今までのそれぞれの活動が有機的につながり、子どもたちの読書活動が整い、いつでもどこでも 1 人ひとりが生きる力を育む本との出会いができるよう、自主的な読書活動を推進するためのものです。

今回の改訂は、この 5 年間の取り組みの成果と課題を検証し、今後の子どもの読書活動の推進のための基本施策の方向の見直しを行うものです。

### (2) 柱となるもの

子どもの読書活動推進のための具体的方策は、次の 3 つの柱に基づいて行っていきます。

- (ア)子どもが読書に親しむための機会の提供と充実
- (イ)子どもの読書活動を推進するための環境の整備と活動を支える人材の育成
- (ウ)子どもの読書活動推進についての啓発・広報と関係機関との連携

### (3) 対象と期間

この推進計画の対象は、乳幼児、小学生、中学生、高校生を中心とし、おおむね 0 歳から 18 歳までとします。

実施期間は、平成 28 年 4 月から 5 年間で、必要に応じて見直していきます。

## 第2章 これまでの成果と課題

### (1) 第1次計画の成果

- 平成22年から5年間、子どもの読書推進委員会では、家庭・地域・学校での読書活動の推進や環境整備を進めると同時に、計画を策定するだけでなく、本に出会う様々な機会を作ろうと連携して活動を行い、毎年秋の読書週間にあわせて「日野町読む読むキャンペーン」・「読む読むフェスタ」を開催することができました。
- 「読書が好き」「どちらかというが好き」という子どもは、小学校86.9%（県74.7%、国72.1%）、中学校73.8%（県73.0%、国70.1%）と多く、特に小学校では全国平均を大きく上回っています。
- 子育て支援室・保育所の約9割の家庭が「読み聞かせ」を行っており、母、祖母の他に父、きょうだいの割合が増加しています。
- 0歳児への「ブックスタート」に加え、平成22年度から3歳児へ絵本を贈る「ブックスタートプラス」を図書館で行い、家庭での読み聞かせにも利用してもらうことができました。
- 第1次計画で課題となっていた学校司書が、平成23年度から保育所と中学校、小学校2校に兼務ではあるが1名ずつ配置され、また資料費も増加し、平成27年12月からはシステムを導入するなど環境が整い、学校図書館の貸出冊数が大幅に伸びました。
- 小・中学校の朝読書では、定期的に地域のボランティアのみなさんに「読み聞かせ」をしてもらうことも定着し、「読み聞かせが好き」と答えた子どもの割合も増加しました。

### (2) 第1次計画の課題

- 年齢が上がるとともに、だんだん本を読まなくなる傾向があり、学校の朝読書では読んでいるが、それ以外では1日に10分以上本を読んでいる児童生徒は小学生64.6%、中学生56.9%、高校生48.3%にとどまっています。
- 1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合は小学生8.5%、中学生27.7%、高校生28.1%もあります。部活や勉強が忙しくなり、新しいメディアなどの関心も多様化してくる中で、読書の意義を伝え、自主的な読書活動を促す取り組みをすすめる必要があります。
- 家庭での読書活動の定着に向けて関係機関が連携し、読書や読み聞かせの重要性について、保護者への理解を一層深めていく必要があります。
- 多くの本が出版される中で、良い本を選び、子ども達の手の届くところに置くことや、質の高い読書に導くための人材の育成、研修機会の確保が必要です。特に学校司書は、1校に1名の配置が望まれます。

### 第3章 具体的な取り組み

#### (1) 子どもの読書活動を推進するための機会の提供と充実

##### ①家庭・地域での読書活動の推進

子どもが読書習慣を形成するための最も大切な場所が家庭です。乳幼児期は、子守歌やわらべうた、語りかけなどを通して親と子が触れ合い、豊かな感性と言葉の基礎が育まれます。家庭で大好きな人がだっこして絵本を読んでもくれる体験は、乳幼児にとって大きな喜びと安心です。この時期は、なるべく電子メディアから子どもを遠ざけ、身近な人の肉声で愛情をもって語りかけることが必要です。

乳幼児の健やかな発達を願い、家庭での読書活動を推進するために、身近なところに本のある環境を整える手助けとなるよう、ブックスタートや図書館、子育て支援室での「おはなし会」や本の紹介などを推進します。

平成26年度のアンケートでも、就学前の子ども達への家庭での読み聞かせは、ほとんどの家庭で実施されていました。しかし一方では、年齢が上がるにつれて本を読まなくなる傾向があります。メディアとのかかわり方を指導するなど、「家庭の日」などの取り組みと連携して、家庭での読書「家読（うちどく）」が実施されるよう努めます。

さらに図書館や学校からの広報などによる情報提供や、講演会、研修会を実施して、保護者への啓発を行い、それぞれが家庭にあった方法で読書に取り組めるような環境づくりを進めます。

##### ○日野町のブックスタートとブックスタートプラス

日野町では、平成5年度から、赤ちゃん誕生後1年間、毎月絵本を一冊ずつ届ける出生祝事業を行ってきましたが、平成16年度から財政事情により廃止され、18年度から新たに図書館と保健師、ボランティアが連携して行うブックスタート事業を始めました。現在は、絵本2冊と木のおもちゃ（木のおもちゃグループ作）を手作りの布袋（たんぽぽの会作）に入れて、乳幼児相談の際に手渡して、赤ちゃんの体の発達と共に心の発達の大切さを伝えています。また、乳幼児相談のあと、わらべうたや絵本の読み聞かせなどを親子で一緒に楽しみ、子育て支援室や図書館の利用も勧めています。



日野町のブックスタートで渡すもの

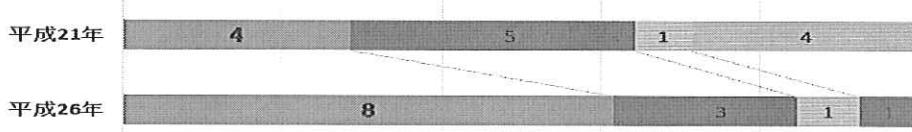


乳幼児健診でのブックスタートの様子



ブックスタートで受け取った本を、家庭で読み聞かせ等に利用されましたか。

■よく使った ■ときどき使った ■あまり使っていない ■使っていない ■無回答



平成 26 年度のアンケートによると、「ブックスタートの本を家庭での読み聞かせに使った」と回答した人が 8 割ありました。また多くの方が「子どもとふれあう機会がふえてよかった」「本が好きになった」「言葉が豊かになった」と回答しています。

平成 22 年度からは、3 歳児を対象にブックスタートプラスを開始しました。年齢に合った絵本を 2 冊ずつ選んでもらい、図書館のおはなし会に親子で招待して手渡し、図書館の利用も案内します。



読むメンのおはなし会



ブックスタートプラスの風景

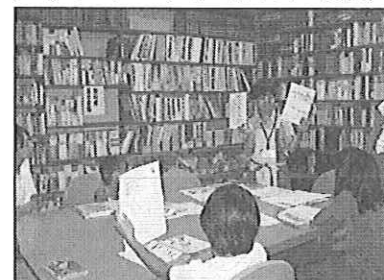
② 図書館での読書活動の推進

日野町図書館は、絵本約 1 万冊、児童書約 1 万 3 千冊の蔵書と、専門的な職員を有し、日々子どもの読書活動を推進する中心的な役割を担います。

図書館は、すべての人が日常生活の中でいつでも読書に親しむことができる場所であり、地域の情報の拠点です。

子どもが本と出会い、読書の楽しみを知る場所として、魅力ある資料の収集と提供、保存に努めます。「あかちゃん絵本」や「ティーンズコーナー」など、年齢にあった本棚を作ったり、定期的に「おはなし会」を開催したり、ブックリストによる情報提供を行うなど、子ども達がそれぞれの年齢や興味にあった本に出会えるよう努めます。また、子育て支援室・保育所・学校・公民館・集会所などへ団体貸出を行い、「おはなしの出前」や「ブックトーク」などにも出かけます。また、レファレンス機能を生かし、子どもたちの読書相談や調べ学習を援助します。

さらに小中学校図書館とネットワークをつなぐことにより、子どもたちのリクエストに応じて読みたい本を迅速に届けたり、学校図書館への資料提供や相互貸借が容易にできるよう整備します。



おたすけ自由研究



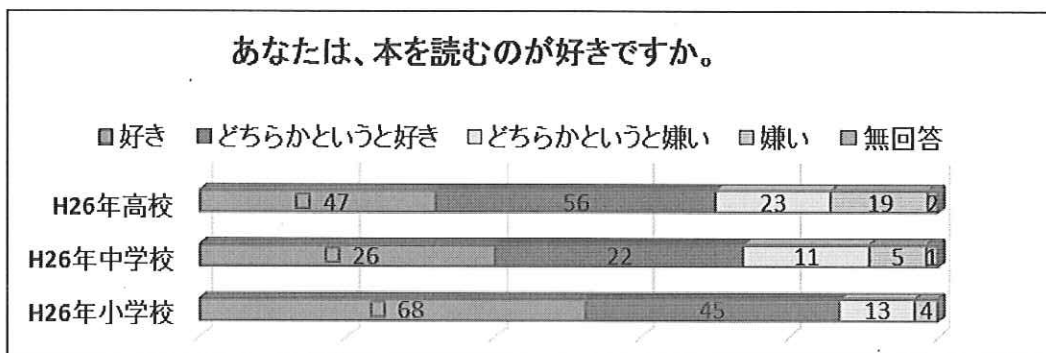
### ③ 学校での読書活動の推進

子どもが読書習慣を身につける上で、学校の果たす役割は大きく、教職員全員が読書活動の重要性を認識し、学校をあげて取り組むことが望まれます。

小中学校のみならず高校も朝の斉読書が定着してきており、全校児童生徒、教職員で継続して取り組みます。小中学校では、朝読書に地域のボランティアのみなさんに「読み聞かせ」を行ってもらい好評です。今後とも地域と協力して子どもの読書を推進します。

また児童生徒による図書委員会等の自主的な活動を支援し、各学校の特色を生かした読書関連行事を積極的に行います。

そのうえで、第2章(2)にも挙げたように、読書の意義を伝え、自主的な読書活動を促す取り組みを進める必要があります。

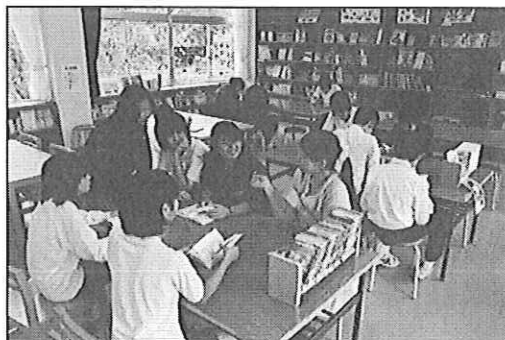


学校司書と司書教諭は、連携して学校図書館の学習情報センターとしての機能の充実をめざし、計画的な資料の整備に努めます。平成23年度から、学校司書が保育所と中学校、小学校2校に兼務で1名ずつ配置され、学校図書館の整備が進み、貸出も大幅に増えました。今後に向けて、1校1名の配置が望まれます。

さらに、保護者に対して子どもの読書活動への認識を深めてもらうため、参観日や研修会などの機会に働きかけ、子どもと共に読書を楽しむ習慣をもつよう啓発します。



ボランティアによる小学校での読み聞かせ



中学校の学校図書館で司書と子どもたち

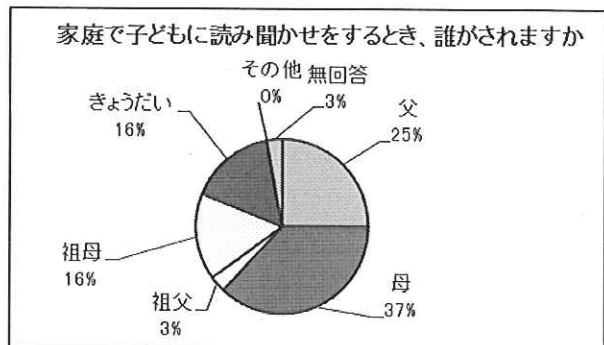
#### ④ 子育て支援室・保育所での読書活動の推進

子育て支援室・保育所は、乳幼児がはじめて集団生活を経験するところであり、保育士が読んでくれる絵本を通して友達とかかわりながら、豊かな心を育みます。乳幼児がいつでも好きな本を手に取り、見ることができるように年齢にあった本をはじめ、いろいろな種類の本をそろえた「絵本コーナー」を設置し、自発的な読書習慣を育てます。図書館と連携して保育士、ボランティアなどと共に情報交換や研修の機会を設け、選書や読み聞かせの資質の向上に努めます。図書館の団体貸出や「おはなしの出前」なども開催して、子ども達が幅広く良い本に出会える機会をつくります。

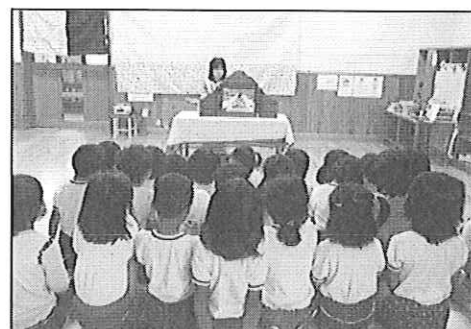
平成 25 年度からは、図書館からの親子出前貸出も定期的に行い、家庭での読書を勧める機会も増えてきました。

「家庭の日」の取り組みとも合わせて、保護者の子どもの読書への関心を高め、家庭での「読み聞かせ」を広げます。

平成 26 年度実施のアンケートでは、「読み聞かせ」をしている家庭は約 9 割あり、母親だけでなく、父親、祖父母、きょうだいなど、家族ぐるみで行われています。



子育て支援室へのおはなし出前



保育所へのおはなし出前

#### ⑤ 障がいのある子どもへの読書活動の推進

日野町図書館では、点字絵本や手話の本、さらにボランティアの協力により「木のおもちゃ文庫」や布絵本などを資料に加え活用しています。しかし、さまざまな障がいの種類や程度に応じた読書活動をするための施設の整備は十分に整っているとはいえません。それぞれの要望に応じて、必要な資料を揃えたり、県立図書館からの貸出を利用するなど、今後の取り組みが必要です。

職員は障がい者サービスの研修を受け、ボランティアとも連携して障がいのある子どもたちが読書に親しむ環境を作るよう努めます。



自閉症啓発パネル展



点字のしおり作り

## (2) 環境の整備と活動を支える人材の育成

### ① 家庭・地域での読書環境の整備

ブックスタート、ブックスタートプラスなどの実施により、家庭ですぐ近くに本があり、読み聞かせができるきっかけを作るとともに、図書館・子育て支援室・保育所・公民館・集会所等で身近に本が借りられる環境を整えることが必要です。また、青少年育成会の「家庭の日」の取り組みとも連携して、家庭での読書の習慣をつける取り組みを推進します。

### ② 図書館の整備

資料費を確保するとともに、すべての子どもが身近に図書館に親しめるよう環境整備が必要です。図書館の環境整備と共に、図書館まで来られない子どもたちへの出前貸出、地域の「よらいや図書館」への貸出もすすめます。

また、児童図書に関する専門的な知識を有する司書の配置、職員体制の充実と研修による資質の向上も必要です。そこで、子育て支援室・保育所・学校の司書教諭等との情報交換会や研修会を開催していきます。

さらに、鳥取県内の図書館ネットワークの拡充も図ります。

### ③ 学校図書館の整備と学校司書の配置

学校図書館は、児童生徒の知的活動を促進し、多様な興味・関心に応えられるよう、新しい図書の整備・充実と、子どもの読書活動を活発にするために、学校司書が常に図書館にいて支援することが必要です。学校司書や司書教諭を中心に、教職員の共通理解のもとに学校図書館が一層活用されるような取り組みを進めます。

### ④ 子育て支援室・保育所の環境整備

乳幼児期は、読み聞かせを通して読書の楽しさと出会う大切な時期です。

子育て支援室、保育所では、絵本や紙芝居などの蔵書の充実と職員の選書などの資質向上のための研修も必要とされます。図書館と連携しながら、団体貸出や共同で研修会の開催も行います。また、親子と一緒に絵本に親しむ環境づくりも推進します。

#### ⑤ 読書ボランティアの育成と活動支援

子どものよりよい読書環境をつくるには、地域で活動している読書ボランティアの活動が大ききな力になります。図書館では、地域で読み聞かせなどを実践する読書ボランティアの活動をコーディネートしたり、連絡会や研修会を行い、子どもたちがよい本に出会えるよう促します。また、図書館ジュニアスタッフの育成も行います。



ジュニアスタッフのおはなし会

#### (3) 子どもの読書活動についての啓発・広報

##### ① 推進のための普及・啓発

子どもの自主的な読書活動を促進するためには、子どもの身近にいる大人自身が読書に親しむ姿勢を示すとともに、子どもの読書活動の意義や重要性を理解していくことが必要です。そのために、町全体で子どもの読書に対する関心と理解を深め、子どもの読書活動を推進するための幅広い普及・啓発を図ります。

図書館では、ボランティアグループ「おはなしくれよん」や図書館ジュニアスタッフとともに「子ども読書の日」(毎年4月23日)、の前後に「春のお話会スペシャル」を開催し、啓発に努めました。また、子どもの読書推進委員会では、読書週間(毎年10月27日～11月9日)を中心に「日野町読む読むキャンペーン」、さらに「読む読むフェスタ」を開催してきました。今後ともさまざまな本に出会うための啓発を行っていきます。



読む読むフェスタで読書リレーの表彰



春のおはなし会スペシャル

## ② 子どもの読書に関する情報の収集と提供

町の広報紙やホームページ、図書館・保育所・学校のたよりなど、あらゆる機会に子どもの読書に関する情報を掲載し、地域住民への情報提供に努めます。また、子どもの読書活動を支える人材を育成していくための情報発信を行い、幅広い層に呼びかけて、町全体で推進していく体制を整えます。

## 第4章 効果的な推進のために

### (1) 子どもの読書推進体制の整備

次世代の地域を支える人材を育成することは、町にとって重要な責務であり、人材育成に読書が果たす役割も大きなものがあります。行政と民間が協力して地域ぐるみで、読書活動を推進するための体制を整えます。

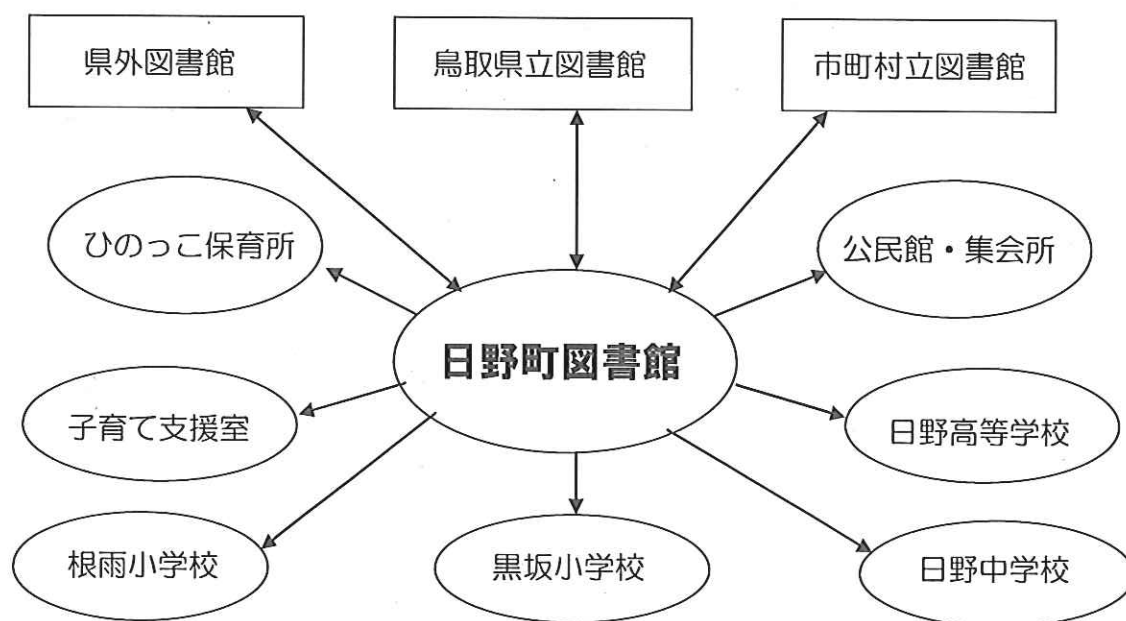
また、「日野町子どもの読書推進計画」をもとに子どもの読書環境を整えるため、財政上の措置を講じるよう努めます。さらにこの推進計画に示された各種施策のために、必要な財政上の措置を講じるよう国・県に働きかけていきます。

### (2) 関係機関との連携・協力の促進

子どもの読書推進を効果的に実践していくためには、関係機関が、子どもの読書活動に関する取り組みを行い、情報交換をしていくことが必要です。

また、長期的に子どもの読書活動の取り組みがおこなわれるためには、推進計画の普及・啓発と合わせて、具体的な方策の検討や見直しも行います。

### 図書館・関係機関との物流ネットワーク



【第2次計画の目標値】

1. 子どもが読書に親しむための機会の提供と充実

○読み聞かせをしている家庭の割合		
	平成 26 年度	平成 31 年度目標
乳幼児(0歳～5歳)	91.0%	95%
○家や学校で、平日1日に10分以上読書する割合		
	平成 26 年度	平成 31 年度目標
小学生	64.6%	70%
中学生	56.9%	70%
高校生	48.2%	60%
○1か月に1冊以上の本を読んでいる児童生徒の割合		
小学生	93.3%	95%
中学生	72.3%	80%
高校生	64.8%	70%

2. 子どもの読書活動を推進するための環境の整備

○学校図書館を1か月に1回以上利用している児童生徒の割合		
	平成 26 年度	平成 31 年度目標
小学生	91.4%	95%
中学生	78.4%	85%
高校生	36.7%	50%
○日野町図書館を利用している児童生徒の割合		
小学生	52.3%	70%
中学生	56.9%	70%
高校生	32.6%	50%

3. 子どもの読書活動を支える人の育成と普及・啓発

○学校図書館司書の配置		
	平成 26 年度	平成 31 年度目標
保・小・中学校	兼務	各校1名
○学校図書館連絡会、研修会の開催		
	年2回	年3回
○本を読むことが好きな児童生徒の割合		
小学生	87.4%	90%
中学生	73.4%	80%
高校生	69.9%	80%